

今月の聖句

『あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯。』
詩編 第119編 105節

◎3月の予定

- 7日(月) 時間割変更期間〜17日
- 11日(金) 教務委員会
- 16日(水) 給食終了
- 17日(木) 3学期終業礼拝、教職員協議会
- 18日(金) 卒業礼拝式予行
- 21日(月) 卒業礼拝式

◎4月予定

- 5日(火) 教務委員会、教職員協議会
- 6日(水) 1学期始業礼拝
- 7日(木) 入学礼拝式



自画像



冬の寒さを表そう



児童・生徒作品から

『はしご』を作ろう

やぶいた形から生まれたよ



◎今月の行事から

○3学期終業礼拝 17日(木)

新型コロナウイルスの不安の中、様々な対応が今年も行われました。児童・生徒一人ひとりは精一杯努力して、3学期終業礼拝の日を迎えることができます。保護者の皆様をはじめ、聖ステパノ学園に関係する方々の支えがあつてこそです。心より感謝を申し上げます。

○卒業礼拝式 21日(月)・春分の日

小学校 9時30分
中学校 11時10分

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策として、今年度も小学校と中学校の式を別々に執り行います。
今年度は小学校21名、中学校21名、合計42名のステパノっ子を送り出します。この様な時だからこそ、しっかりと子ども達の門出を祝えるよう、心を込めた準備を行いたいと思います。当日、式には在校生は出席しません。保護者参列は、卒業生の保護者のみ、各家庭1名の参列をお願いいたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

リスタート「大斎のお話」

学園長 小川 正 夫

今、キリスト教の暦では大斎克己期間に入り例年ですと火曜日と金曜日の週二回、先生方が交代でお話をしてくださいますが、コロナのパンデミックでみんなが一堂に集まることを自粛していますので、私から子ども達みんなに、ステパノ日よりで手紙を送ります。

* * *

みなさんこんにちは、今の学年になって、ちようど一年たちましたね、もうすぐ一年生は二年生になります。学年が一つずつ上がり六年生は中学校に、中学三年生は高校に進学する準備を始めています。

ちようど二か月前になりますが、お正月、この一年の始まりにどんなことを決心したか覚えていますか、今年はこんな年にしたいなとか、こういうことに心を向けてみたいなのか、これを努力目標に決めようなどと考えたと思います。どうでしょう、実行できていましたか。

私も考えました。二つあります、それはみなさんが毎日明るく希望をもって学校に来られるように、明るく快適な学校にしたい。

もう一つは、先生方がみんな仲良く力を合わせてみなさんのために、またみなさんのお母さんお父さんのために心を込めて丁寧の良い教育をしてくださるよう、自分ができるところを実行しようということです。

みなさんは決めたことを実行していますか。考えるまでは誰にでもできるのですが、実行し続けるのは難しいことです。ですが、何回でも思いだして、何回でも始めてみると良いようです。我慢して何回でもリスタートして努力していると、今までできなかったことがだんだん出来るようになります。そうすると希望が見えてくるようになるようです。

私が中学生だった頃、信仰の火が、ローソクの火が風で消えてしまうことがあるように、ついたり消えたり私の心に、消えたことに気づいたら、何回でも火を付け直して明るくすればいいですよ、と教えられました。

オリンピックの選手はみんな素敵な明るい笑顔を見せてくれますが、四年間、八年間、中には一六年間の間、我慢して、頑張つて体を鍛えてきたのだそうです、そうすると希望が見えてきたそうです。そして、日本に帰国した選手が、みんな笑顔で、嬉しそうに、これから四年後、八年後のオリンピックを目指してまた努力していきたいと言っている姿を見ました。素晴らしいですね。

聖ステパノ学園の良い子の皆さんは、毎朝必ず、先生と一緒に祈りをして一日が始まりますが、とても大事なことです。

「天の父なる神様、昨夜も無事にお守りくださいまして、また、新しい日を迎えることができましたことを感謝します。今日も一日、神様に喜ばれる良い子どもとして過ごすことができますように」と祈ります。

授業が始まる前には「新しい心で勉強を始め私達にお恵みをお与えください、どうぞ熱心に学び、神様と大勢の人達のために働く良い備えをさせてください」と祈ります。

私達は神様の前で、心を込めて一生懸命頑張ります、どうぞ、私達に頑張る力を与えてくださいという心構えです。

一日が終わり、皆さんが眠りにつく前には、「今夜も私達をお守りください。神様がいつまでも私達と一緒にいてくださることを固く信じて、安らかに眠り、また明日も元気で神様に喜ばれる技を励むことができますように」と祈ります。

つまり、朝は希望と共に始まり、昼は何をするにしても心を込めて努力し、一日が終わり、夜を迎える時、神様に一日を感謝することができれば、素晴らしい毎日を迎えることができるようになると思います。皆さんの祈りの本には、ちゃんと書いてありますので、お家の人達にも教えてあげてください。

私達は、自分一人で生きていて、自分で生活しているように感じることはありませんが、静かに祈りを繰り返していると、本当はたくさんの人達、先生やお友達、お母さんやお父さんに守られ、愛されて生きていることに気が付くようになります。

私達は、親切な友達に会うと嬉しくなり、自分も親切な気持ちになります。あなたが友達に親切になれると、周りに親切な友達が増えてくるようですよ。

すべてに時がある

小学校教頭 長谷川 誠子

今年度もあつという間に学年末の3月となりました。どの学年の子ども達もその様子から、成長を感じさせられます。

厳しかった寒さも和らぎ、暖かな春が近づいてきました。1年生の子ども達と秋に植えたチューリップの球根も芽を出し始め、日に日に育っています。教室には、水栽培しているヒヤシンスの球根もあり、こちらはすでにピンク色のきれいな花を咲かせました。透明の容器で栽培しているので、花が咲く前に根がぐんぐんと伸びる様子も見られ、育っていく過程を楽しむことが出来ました。

土に植えたチューリップの根は掘り出さなければ目で見ることはできませんが、ヒヤシンスの様子を見て、地中でも根をどんどんと伸ばし、成長していることを子ども達も想像することが出来たように思います。

子ども達が帰った放課後の教室で、きれいに咲いているヒヤシンスを眺めている時、水栽培なのにこんなにきれいな花を咲かせる球根の不思議に興味が湧きました。今までいろいろな球根を植え、花を楽しんでいたのに、球根についての詳しい知識があまりないことに気付かされました。

偶然にもそんな時に、表紙に色鮮やかなチューリップが描かれている「かがくのとも」

という本を目にしたのです。

球根の中には、芽となり、葉っぱや花になるところがあります。その周りには芽が育つために必要な養分がしっかりと蓄えられているのです。土に植えなくとも、水を吸う事が出来れば、その養分を使って芽を出すことはできます。地中に植えられた球根は、根をしっかりと作り、水分や栄養を吸い上げ、球根を育てていきます。そして、寒い冬を乗り越え、芽を出し、葉や茎を伸ばし、蕾をつけて花を咲かせます。花を咲かせる前には、新しい球根も作られているのです。

このような球根の秘めたる力は、子ども達の成長に重なるように感じました。子ども達も球根のように一人ひとりの中に芽となり、葉や花となる部分が秘められています。

しかし、そのままでは芽も枯れてしまいきます。それらを成長させるためには、たくさん根を伸ばし、球根が大きくなるために水分や養分を蓄える必要があるのです。

この3月に卒業する小6と中3の児童・生徒達の中に、私が小1の時に担任した子ども達がいまいます。今の小学校1年生と同じように、まだまだ小さくて、可愛らしく、初めての学校生活に一生懸命取り組んでいた姿が今でも思い出されます。

あれから6年、9年と時が過ぎ、卒業を迎える今の姿には大きな成長を感じ、とても嬉しく思います。これまで歩んできた小学校、中学校生活の中で、子ども達はたくさんの根

を広げ、多くの人と関わり、様々な経験や学びを重ねてきました。その中には、寒い冬とされる様な時間も、あつたことでしょうか。しかし、これら全てのこと、今の子ども達の育ちの栄養になっていったと思います。

子ども達それぞれの花を咲かせ、新しい球根を作りあげるまでの成長過程には、少し時間が必要ですが、成長がすぐに見られなくとも、目に見えない根っここの部分でたくさんの栄養や水分を吸収して力を蓄えているのです。

少しずつ蓄えられたものが花となり、実となっていく様子が、卒業を前にした子ども達の成長から強く感じ取ることができました。

礼拝の時に歌う「きゅうこんの中には」という聖歌162番があります。

「球根の中には 花がひめられ、
さなぎの中から いのちはばたく。
寒い冬の中 春はめざめる。
その日 その時を ただ神が知る。」

思い煩うことがまだまだ多い日常ですが、全ての時を知っているのは神様です。最善をなして下さることを信じて、子ども達と共に希望を持って進んで行きたいと思えます。

誰かのために、自分が変われる

教諭 澤邊 嵩介

3月21日に、小学校6年生21名が、卒業していきます。このクラスは、私が着任してからの5年間、小2の頃から途切れずに担任として関わってきました。特に小3の時から主担任として、保護者の方々や周りの先生方に多くの力添えをして頂きながら指導して参りました。改めてこの場をお借りして感謝をお伝えしたいと思います。

卒業も間近に控えた中でも、日々の授業はまだまだ続いています。先日、国語の授業の『自分の「座右の銘」を考えて作文を書こう』という活動の中で、「先生の座右の銘は何ですか？」という質問を受けました。

私が人生で大切にしている言葉の一つに「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉があります。この言葉は、カナダの精神科医のエリック・バーンという方の言葉です。

授業では、この言葉を座右の銘に選んだ子どももいて、広く知られている言葉だな、と改めて思います。

では、「自分」というものを変えるためにはどうしたらよいのでしょうか？私は、「自分」を変えるということは「考え方」を変えると、ということだと考えています。

「物は考えよう」という言葉があります。よくある例えに、ペットボトルの半分まで水が入っているのを見て（もう半分しかない）（まだ半分も入っている）と、見る人の性格によつてとらえ方が変わるといふものがあります。同じ物事でも、考え方ひとつで見え方が変わっていきます。

もう少し掘り下げてみましょう。「考え方」を変えるためにはどうしたらよいのでしょうか。先ほどの水の例え話でも分かるように、ネガティブな思考の人もいれば、ポジティブな思考の人もいます。こういった思考の癖というもの、すぐに変えられるものではないと皆さんも感じているのではないのでしょうか。

このことを考えるときに、アドラー心理学という心理学の考え方がヒントになります。アドラー心理学では、「考え方」を変えるため、まずは「自己受容」をすることが大切と語られています。

「自己受容」とは、自分自身の好きな所も嫌いな所もひっくるめて、自分をありのままに受け入れるということです。

ここで注意しなければいけないのは、「自己受容」とはありのままの自分のままでよい、ということではありません。全く出来ないから0点でいいとか、100点が取れないから諦めるといふのではなく、とにかく問題に取り組んで結果をありのままに受け入れる。そして、少しずつ前に進むことに価値があるのです。

「自己受容」をするには、「他者信頼」と「他者貢献」が欠かせないとアドラーは言っています。つまり、ありのままに自分を受け入れる為には、自分が信頼している誰かの役に立っていると思えることが大切、という事です。子どもたちにとっては、生活の中での役割があるということが大切になります。

生活の中には、色々な所で誰かの役に立つチャンスがあります。お手伝いをしてみたり、友達の話聞いてあげたり、ペットと散歩に行ったり……私たち大人の役割として、子どもたちに仕事を任せることも大切で、達成したときに感謝を伝えていくことが子どもたちの自己受容に繋がります。こういったことを通して「自己受容」ができていくと、誰かのために「考え方」を変えることができ、そこから「自分」を変えていくことができます。

この先、卒業する子ども達の進む道には、楽しいことや嬉しいことだけではなく、勉強や人間関係など、様々な困難や壁も待ち構えているでしょう。そんな時、まずは、あえて周りの人の為に動いてみましょう。その中で、周りの人との関わりの中で自分が助けられるということがあるはずですよ。

何かを失敗しても、何かができなくても、その自分を受け入れて、少しずつ前向きに未来へ歩んでいけるよう願っております。

あるアニメのセリフで「心を燃やせ。」というセリフがとても心に残りました。もちろん、心にマツチなどで火をつけて燃やすというわけではありません。そのアニメでは、どんな状況でも自分の仲間を守るといふ強い気持ちを貫き通すキャラクターの姿が描かれていました。どんなに絶望的な状況でも心に火をともしように、自分を奮い立たせ最後まであきらめない姿に、感動を覚えた人も多いのではないのでしょうか。

私たちの日々の生活の中で、かつこいひ必殺技や敵との闘いは必要ありません。ですが、自分が挑戦したいこと、学んでいくことには、そういった強い気持ち・絶対にあきらめない気持ちが必要だという事を改めて考えさせられました。

数学の授業で「絶対に無理！」と最初からあきらめてしまっている人がいます。確かに、初めて見る数学は一見難しそうに感じられます。また、算数・数学は答えがただ一つに決まっているため、少しのミスも許されません。そういったところに数学の難しさがあるのだと思います。でも、難しい事でも根気強く取り組むと、必ず理解でき答えを導く事ができます。

ギリシヤの数学者ユークリッドは幾何学

(図形の学問)を学ぶのに近道はないのかという質問に対して、「幾何学に王道なし。」と答えたという逸話が残っています。数学を理解するには近道はない、こつこつと学習していくしかないという事は今も昔も変わらないのです。数学はそれ自体の内容も大切ですが、あきらめないことを学ぶことが内容以上に大切なかもしれません。

私は今まで数学にこつこつと取り組んできました。実際に、時間をかけ丁寧に学習をするといろいろな問題を解くことが出来ました。なぜ、このように取り組むことが出来たのか改めて考えると、単純に数学が好きだからです。一見難しそうな問題でも、よく考えてみるとヒントが隠されていて、解くことができました。一問解けたとき、次の問題が解きたくなり、さらに問題が解きたくなって、結果たくさん問題にチャレンジしました。このように、数学に魅力を感じ、今でも学び続けています。

中学校三年生の皆さんはこれからたくさんの人に出会い、たくさん経験をすると思います。たくさんさんの経験の中には楽しい事ばかりではありません。すぐに忘れてしまいたいと思う嫌なことも数多くあるかもしれません。そんな時でもあきらめず、しぶとく、時にかつこ悪くても向き合っていくことも大切なのだという事を知っておいてほしいのです。そして、自分の本心に頑張っていきたいと思える夢を持つてもらいたいと思います。自分の

夢のためなら、最後まで取り組むことができると思えます。皆さんのこれからしたいことは何ですか。

この一年、中学校では感染症対策でたくさん行事が中止になってしまいました。これまでもならば経験できた事の多くをあきらめなくてはならない状況でした。そのような中でも、先生方は皆さんのために努力をしてくださっていたことを覚えておいてください。そして、皆さんの学校生活を支えてくださったご家庭への感謝を忘れてはいけません。こういったたくさんさんの支えの中で三年間の中学校生活を送り、これから卒業礼拝式を迎えることができましたのです。少し照れてしまうかもしれませんが、勇気を出してご家族に感謝の気持ちを伝えてみてください。

ステパノ学園で過ごした日々の経験は皆さんにとってとても大切なものとなるでしょう。みんな泣いて、笑って、喧嘩したことは他には何にも変えられません。いい思い出も、苦い思い出も全てが宝物です。これからは自分を支えてくださっている方々に感謝の気持ちを忘れず、何事にもあきらめない力強さをもって頑張ってください。皆さんの今後のご活躍をお祈りしています。



「小学校」小学校6年生も後少しで卒業です。
「小学校の〇〇へ」というテーマで書きました。

小学校の澤邊先生へ

5年間ありがとうございました。おこられたりしたけど最高の思い出です。中学でも忘れません。

A K

小学校の友達へ

今まで、仲良くしたり、遊んだり、話したりして、楽しくやれたのは友達のおかげ。

I J

小学校の運動クラブのみんなへ

運動クラブは、サッカー等をして本当に楽しかったよ。これからもサッカーを頑張つて。

I H

小学校の友達へ

いつも遊んでくれて、喜んでくれて、話しかけてくれて、笑ってくれて、ありがとう。

I H

小学校の友達へ

HくんとCちゃんとかみんな大好きです。またみんなと一緒にいたいんです。

O C

小学校の教室へ

今までありがとう。安心した。さみしいです。

K K

小学校の私のクラスの女の子へ

クラスの女の子3人はやさしくておもしろい。あって私の家であそんでくれてありがとう。

S K

小学校の友達へ

一年生の頃から居た人も、小学校を卒業するまでに来た人も色々有り難う御座います。

T M

小学校の校長先生へ

いつも、小学校から中学校までの誕生日をむかえてくれて、ありがとうございます。

T H

小学校の水槽に少しだけいたハコフグへ

約一か月いたハコフグさん、チャンスがあれば、中学校に来てください。

N O

小学校のくすの木へ

かつて3年のときに穴をあけてすみません。これからは元気に長生きしてください。

N Y

小学校のしよぎクラブの全員へ

みんなともしよぎをやってしようぶしたり大会など楽しかったです。

H K

小学校の先生へ

僕の体が弱っているとき、助けてくれてありがとうございます。楽しい毎日でした。

H U

小学校の友達へ

6年生の、みんなには、楽しい事をしたりみんなで、おこられたりなども、思い出です。

F C

小学校のげいじゅつとうへ

ずこうのじゅぎょうをたのしくやらせてくれてありがとう。

M O

小学校の自分へ

いつもお元気ですか？いつまでも元気でいてください。

M A

小学校のクスノキへ

いつも青空の下で私を見守ってくれてありがとう。いつまでも元気でいてください。

M H

小学校のくすの木へ

ぼくの先輩のくすの木 日なたで休んで水あげて みんなの思い出忘れずに

Y Y

小学校の給食さんへメッセージ

いつもおいしいご飯をありがとう。嫌いな物もあるけどしっかり食べれるようになるよ。

Y T

小学校の思い出へ

今までみんなと楽しく過ごさせてくれて、ありがとうね。

K S



「中学校」卒業を迎えた二十一名の言葉です。

今まで本当にありがとうございました。一、二年生の人達は卒業するときに後悔しないように、これからも頑張ってください。 AN

僕は新聞委員会で活動しましたが、中一と中二の人達も頑張ってくれたのでとても助かりました。高校でも頑張っていきます。 AT

今まで当たりまえのように私を見守っていた自然や先生方の温かさに、離れるとなった今やっと気づき、寂しく嬉しく感じる。 AH

この三年間で、色々な方の支えがあり人間的に成長でき、感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れず次の舞台でも頑張ります。 KS

僕はステパノの自然の音を聞くのが大好きです。卒業して辛いことがあったら先生、仲間達、自然を思い出して頑張ります。 KK

僕が将来やってみたいことは、ゲーム開発です。夢がかなうように頑張ります。 GK

三年間を振り返ってみて、後悔や失敗があり、正直まともなことができなかったですが、成長を支えて頂いた三年間でした。 KM

私は約五年間ステパノ学園にいました。みんなが仲良くできる良い学校でした。卒業をするのがさみしいです。今までありがとうございました。 TM

私が卒業するにあたって感謝を伝えたいのは、まず家族、友人、そしてお世話になった先生です。 TR

三年間、行事など生活の中でたくさんのが学べました。この経験を活かして、高校生活もがんばっていきます。 TM

この学園のおかげで、ここまで成長できました。ここでお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。 NH

私は、ステパノ学園に入ってから、小学校生活より楽しいと思えるようになったので入って良かったです。 ND

僕はこの学校に九年間いるのでこの学校を離れるのは悲しいです。でも卒業するので、最後は中三のみんなで卒業したいです。 HH

中三は一番苦労した学年でしたが、一番楽しい学年でした。高校ではもっと苦労して、もっと楽しみたいと思います。 FY

私は最初、中学校生活に不安がありました。が、三年間しっかりやれたのは先生方のおかげです。本当に有難うございました。 ME

ステパノに入って、辛いこともいやなこともたくさんあったけれど、友達と話したり遊んだりして、とても楽しかったです。 MS

小学校と中学校で生活してすごく楽しかったです。先生や生徒が優しくとても嬉しかったです。三年間有難うございました。 MK

三年間をコロナのせいで普通の三年間として過ごせませんでした。が、何事もなく無事に卒業できることが嬉しいです。 YA

もうすぐ卒業ですね！私は中学校生活があつという間で実感がないです。寂しい気もします。：本当にお世話になりました。(涙) YS

今年中学三年生になる人へ。三年は二年と違うところが色々ありますが、すごく心配することはありません。頑張ってください。 YM

私は卒業に向けて、様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。最近運動にも積極的に取り組むようにしています。 OA





一九九八年生まれの高梨智樹さんは、当時黎明期だったドローンを使って撮影した空撮映像の迫力に魅了された小学校高学年時から、半年かけて情報を探り、海外から部品を集め、独力で組み立てた機体で練習を重ねて数年の後は国内ドローンレースで優勝し、日本代表として世界大会で活躍する存在となりました。現在は、空撮機、レース機、産業用の機体まで様々な種類のドローンを操作するプロのパイロットとして、空撮や人の立ち入りが難しい場所での点検業務を行う会社を父の浩昭さんと共に経営しています。彼の操縦技術は高く評価され、災害時には、行政からの依頼によって、災害状況を確認する撮影が可能。な許可を国土交通省から得ているようですが、ドローンと出会い、共に飛び立つまでには、紆余曲折の学生時代があったそうです。

幼少期から周期性嘔吐症という病のために体調が安定せず、小学校はほとんど登校できなかつた高梨さんには、読み書きや計算の困難もあり、小学五年時にひらがながようやく読める状態だったそうです。その後、公立中学校に在籍しながら病院内にある特別支援学校での学びを中心にした生活で、個別の指導と支援を受けて体調も安定し、専門的な見立てのもとに識字障害と診断、優れた聴覚と記憶力を活かしてパソコンを代替手段とした学習法を習得したそうです。また、担任教諭から紹介された東京大学先端科学技術研究センターの研究者からも知見を得て、「考え方次第で何者にでもなれるのだ」との気づきから高校受験を決意、入学後には障害や病気のある若者の高等教育への進学と就労への移行支援を通じたリーダー育成プロジェクト Do-IT-Japan メンバーに選抜され、学びを深めます。

高校二年時、タイムや順位を競うドローンレースの大会に初出場し、「生まれてはじめて競う楽しさ」を体感したそうです。病弱ゆえに、運動会などの競技で勝ちたいと思う経験がなかった高梨さんは、階級もなく、一つのルールのもとに異年齢の参加者が競う世界に惹かれ、レース会場での技術や部品への興味から、元来苦手なコミュニケーションにも積極的になったそうです。

「自分には何ができるか、何をしたいのか」に集中すれば、「いつかきつと、自分だけの道が見つけられるはず」だと自らの経験を振り返る高梨さんの軌跡は、『文字の読めないパイロット 識字障害の僕がドローンと出会って飛び立つまで』（高梨智樹、イースト・プレス、二〇二〇年）に描かれています。

熱中できる何かに出会い、好きなことを磨く途上で開ける世界に生きる喜びが、今春ご卒業の皆さんの未来にもありますようにお祈りいたします。（卒業おめでとう）

STEPHEN'S NEWS

理科室拡張・芸術棟のシンク増設

児童・生徒が増え、手狭になつてきた理科室が拡張されました。薬品や器具を補完する理科準備室も新しく増設され、子ども達も広くなり喜んでいきます。

芸術棟のシンクも増設され、より使いやすくなりました。



新・理科室



芸術棟シンク

【編集後記】

不自由や緊張を感じることの多い毎日の中でも、健気に笑顔の花を咲かせる子供たち。笑顔の下の柔らかな心を注意深く見守る中で、今年も春が巡ってきます。学園を巣立つ一人ひとりに幸多かれと祈ります。一年間のご愛読ありがとうございます。（た）

代表者 学園長 小川 正夫
発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298
FAX 0463-611-9739
<http://www.stephen-osiso.ed.jp>

二〇二二年三月十日（木）発行 第263号